



アルゼンチン市場混乱によるブラジル経済への影響

- アルゼンチン大統領選挙戦での左派候補躍進を受け、8月12日のアルゼンチン市場では株価やペソ相場が大暴落。
- アルゼンチン市場の混乱を受けて、投資家のリスク回避姿勢の強まりから、ブラジル市場にも株安・通貨安が広がる。
- 近年はブラジルのアルゼンチン経済への依存度は低下傾向。アルゼンチン混乱の影響は心理的要素が大きい模様。
- 外部環境の不透明感が増す中、年金改革や税制改革、民営化などの経済改革がブラジル市場見直しの原動力に。

アルゼンチン市場の混乱がブラジル市場に波及

8月12日のアルゼンチン金融市場では、8月11日に実施された大統領選挙の予備選挙で左派のフェルナンデス候補が現職のマクリ大統領に大勝したことが嫌気され、株価(メルバル指数)は前日比-37.9%、アルゼンチン・ペソは対米ドルで前日比-14.6%の大暴落となりました(図1)。

アルゼンチン市場の混乱を受けブラジルでも投資家のリスク回避的姿勢が強まり、ボベスパ指数は前日比-2.0%、リアルも対米ドルで前日比-1.1%と軟調に推移しました。

ブラジルのアルゼンチン経済への依存は低下傾向

アルゼンチンの政治・経済不安がブラジル市場へ波及する現象は過去も幾度となく繰り返されてきましたが、近年はアルゼンチン経済の低迷長期化に伴って、ブラジルのアルゼンチン経済への依存度は低下傾向にあります。

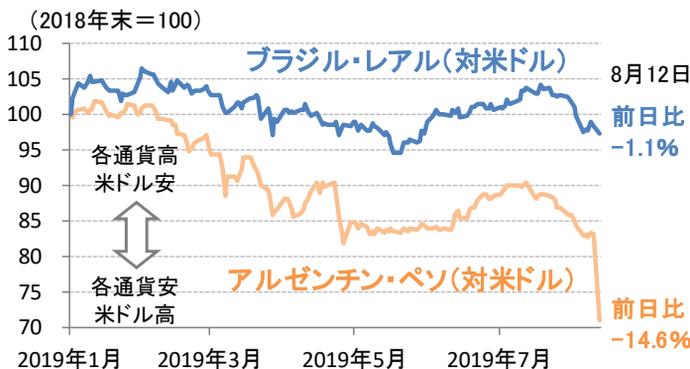
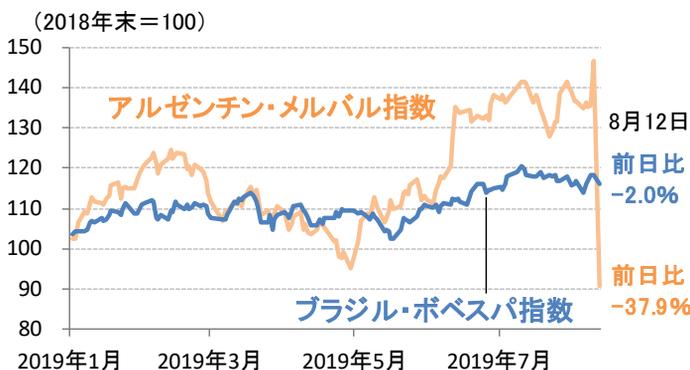
2018年のブラジルの全輸出に占めるアルゼンチン向けの輸出の比率は6.2%と2002年以降の低水準にあるほか、アルゼンチン向け輸出はブラジルの名目GDPのわずか0.8%を占めるに留まっています(図2)。实体经济面からの影響が限定的に留まる中、アルゼンチン市場混乱によるブラジルへの影響は心理的要素が大きいとみられます。

国内経済改革がブラジル市場見直しの原動力に

また、マクリ大統領の改革路線に異を唱える左派陣営の影響が増すアルゼンチンとは異なり、ブラジルでは8月7日に年金改革法案が下院で最終承認されるなど、ボルソナロ政権の経済改革は順調な滑り出しを示しています。

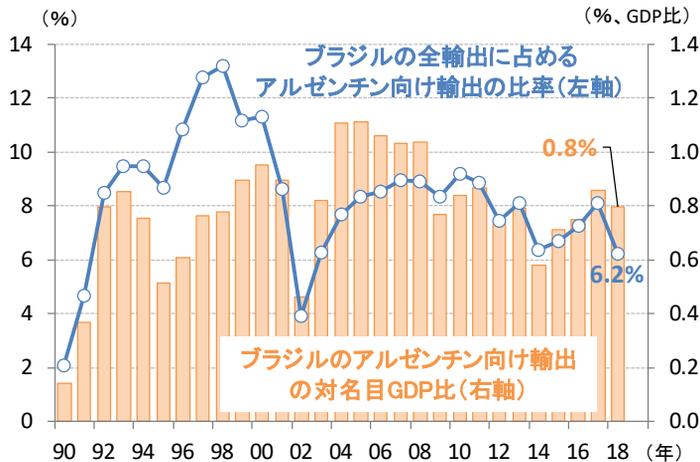
ボルソナロ政権には2022年の大統領選挙まで十分な時間的余裕が残されており、今後の上院での年金改革審議の後も、税制改革や民営化など幅広い経済改革が進められると期待されます。アルゼンチン市場の混乱や米中貿易戦争など外部環境の不透明感が増す中、国内での経済改革がブラジル市場見直しの原動力となりそうです。

図1:ブラジルとアルゼンチンの金融市場の動向



(出所)ブルームバーグ (期間)2019年1月1日~8月12日

図2:ブラジルのアルゼンチン経済への依存度



(出所)各種統計 (期間)1990年~2018年

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。